

いつも一緒 富山のペットたち

春の繁殖期の2カ月後に当たる6月から8月にかけて、保護された子猫がしばしば動物病院に持ち込まれます。今回は、子猫を保護した時に役立つ情報を紹介します。



まず、体重と歯の生え具合などで、おおよその週齢が推定できます。生まれた時の体重は120g程度で、その後は1週間に100gほどずつ増えていきます。

1週齢で目が開き、体重は200gになります。2週齢で歩きだして体重は300gに、3週齢で門歯と犬歯（前歯）が生えて400gに、4週齢で臼歯（奥歯）が生えて500gになります。さらに、6週齢では歯が一番奥まで全て生えそろうて750gとなり、2カ月齢では1kgを超えます。保護された子猫の場合、栄養不良で体重が少なめなことが多いので、歯の状態もしっかり確認してください。

次は性別です。生まれて間もない子猫は、睪丸がまだおなかの中にあるので、性別を見分けるのは簡単ではありません。でも、肛門と陰門（尿の出る所）の間隔でおおむね判断できます。間隔の広いのが雄で、狭

いしはらペットクリニック院長
(富山市太郎丸本町)

石原 隆

子猫を保護したら



タオルで巻いたためま湯入りのペットボトルを入れた寝床。子猫の体温を保つのに役立つ。

いものが雌です。複数の子猫がいる時は、比較すると分りやすいでしょう。三毛猫は雌しか生まれませんので、三毛の子がいた場合、それを基準に比較してみてください。

歯の状態見よう

食べ物、歯の状態を見て決めます。前歯がなければ、ミルクなどの液体をスポイトで与えます。奥歯が少し生えている時は、缶詰のフードや、水やぬるま湯でふやかした軟らかいドライフードを食べさせます。奥歯がしっかり生えていれば、ドライフードをそのまま与えてください。もし、全く食べなければ、動物病院に連れて行きましょう。

ノミや病気に注意を

寝床には清潔なタオルなどを敷きます。子猫は体温を保つ能力が十分ではありません。通常は親猫や兄弟と一緒に寝て、体温を保っています。保護したら、湯たんぽやぬるま湯を入れたペットボトルを利用して、親猫の代わりに保温をしてあげましょう。

無用な繁殖を防ぎ、不幸な子猫が増えないようにするため、不妊・去勢手術は必ず行いましょう。手術の時期は、雄・雌ともに6カ月齢前後が適当といわれています。体重が2kgを超え、全ての歯が永久歯に生え替わったら、お近くの動物病院にご相談ください。

ノミが寄生している場合、ノミが繁殖していき、予防も兼ねて、ノミはなるべく早く駆除します。通常使われているスポット剤（背中に液状にして落とすもの）は、2〜3カ月未満の猫には使えません。子猫でも安心して使えるスプレータイプのもので、動物病院で授与してもらうことをお勧めします。

寄生虫を駆除

病気への注意も必要です。子猫は、猫回虫が感染していることがよくあります。4〜6週齢以上にならなければ症状は表れません。糞便中に寄生虫の卵が出てくるのも、8週齢を超えてからです。回虫が成虫となり、卵を生み始める前の6週齢ごろに、寄生虫の駆除をしておくことがよいでしょう。

また、大量の目やにで目が開かないものや、鼻汁が固まり呼吸がつからうような子猫をよく見掛



結膜炎になった子猫。大量の目やにと鼻汁が出ている。

ただける方がいない場合は、県動物管理センターに相談してみてください。センターでは定期的に、子猫の命を守るための譲渡会を開いています。

2014(平成26)年8月7日
北日本新聞